



Case Report

やわびた 臍につながる深い皺とストーマ周囲陥凹に有効であった症例

キーワード

やわらかい凸、臍につながる深い皺、ストーマ周囲陥凹、硬い腹壁による反発
中長期の貼付期間、通気性・伸縮性に優れた外周テープ

はじめに



帝京大学医学部附属病院
皮膚排泄ケア認定看護師

尾崎 麻依子

1997年に帝京高等看護学院を卒業後、帝京大学医学部附属病院に入職。2005年に日本看護協会看護研修学校 WOC看護学科(現:皮膚・排泄ケア学科)を卒業し、WOC看護認定看護師(現:皮膚・排泄ケア認定看護師)を取得。現在は、帝京大学医学部附属病院にて専従看護師として勤務。

当院では、年間約80例のストーマ造設術が行われ、ほぼ全例にストーマサイトマーキングが実施されている。しかし造設時のわずかな位置のずれ、腹壁皮下脂肪層の厚さや腹壁の硬軟によるストーマ周囲腹壁の変化により、ケア方法が複雑となり装具選択に難渋する症例を経験することも少なくない。

今回、硬い腹壁に生じたストーマ周囲陥凹と臍からの深い皺により、安定した装具装着が得られず、装具選択に難渋した症例に対し、『やわびた』を使用したところ、良好な経過を得られたので報告する。

症例:60代 男性

既往歴	直腸癌。
現病歴	血便を主訴に精査し直腸癌と診断。腹腔鏡下内肛門括約筋切除+回腸ストーマ造設(ループ式)。
家族背景	妻と二人暮らし。
ADL	自立。
ストーマケア	セルフケア実施。
ストーマサイズ	23×21×8mm

ストーマ装具選択の実際

患者は入院時、全面皮膚保護剤の平面型装具に用手成形皮膚保護剤を併用して、3日ごとの交換を行っていた。しかし退院して間もなく、ストーマ周囲の痛みを主訴にストーマ外来を受診することとなった。ストーマ近接部皮膚は全周にわたり糜爛を生じていた。退院時からの体重変化はなかったが、腹壁は硬く、前屈位によりストーマ周囲が陥凹し、臍からストーマに連結するように深い皺が生じていた(写真①)。さらに6時方向には高さの無いストーマ肛門側があり、腸蠕動のたびに周囲皮膚が引き込まれるように窪む状態となっていた。これらの状況から、平面型装具ではすり鉢状となるストーマ近接部に十分な密着が得られず、回腸ストーマからのアルカリ性水様便が常に接触していたことで皮膚障害を発生させていたと考えられた。



写真①



写真②



写真③



写真④

そこで近接部の密着を高めるため、全面皮膚保護剤の凸面型装具へ変更し、さらに皺を伸ばすためベルト固定とした。

10日後の再診日、糜爛は治癒していたが凸面部分には圧痕が出現し痛みも訴えていた。また、臍側の面板外周部がめくれ上がり追従性は不十分であった(写真②)。そこで、やわらかい凸面と密着に優れた外周テープを兼ね備えた『やわびた』を選択した。やわらかい凸面は、陥凹したストーマ近接部によく密着し、患者の硬い腹壁にも反発することなくやさしく追従することで、圧迫感を与えることがなかった。また外周テープが臍や深い皺に密着し外縁部のめくれ上がりもなくなった(写真③)。面板ストーマ孔は既成孔を選択したため、皮膚が露出する部分のみ用手成形皮膚保護剤による保護は継続したが、膨潤タイプである**フレックスウェア皮膚保護剤**により耐久性も得られていた(写真④)。これにより3～4日ごとの安定した装着が可能となった。

考察

ストーマ周囲が陥凹する場合、ストーマ近接部皮膚と面板に隙間が生じやすいため、皮膚と面板の密着を強化できる凸面型装具が第一選択となる。しかし多くの凸面型装具は、硬い凸型嵌め込み具が内蔵されているため、硬い腹壁には反発を生じ十分な密着が得られない場合がある。今回の症例でも、硬い凸面型装具により皮膚障害は改善されたが、ストーマ周囲に過度な圧迫が加わり圧痕と痛みを伴っていた。しかし『やわびた』は凸面の効果はそのままに、硬い腹壁にも反発することなくやさしく密着させる事ができ、かつストーマ周囲に圧迫感も与えることがなかった。また通気性と伸縮性に優れた外周テープが臍と深い皺にもよく追従することで安定感を得ることもできた。膨潤タイプで耐久性のある皮膚保護剤により、皮膚障害を発生することなく期待する貼付期間が確保できた。

まとめ

ストーマ周囲陥凹と深い皺により、安定した装具装着が得られず装具選択に苦慮した症例に対し、やわらかい凸と通気性・伸縮性に優れた外周テープ、高い皮膚保護性と耐久性の皮膚保護剤を併せ持つ『やわびた』を選択したことで、ストーマ近接部の密着性、面板全体の追従性、そして装着感の向上が得られた。